

第2回 六甲山系学習ゾーン検討委員会

議 事 要 旨

1. 開催日時：平成18年12月15日(金) 13:30~16:00
2. 開催場所：神戸国際会館 8F 6号会議室
3. 出席者：

【委員】

田中 眞吾 (委員長)		
大藪 典子	東灘区まちづくり推進課長	欠席
後藤 宏二	六甲砂防事務所長	
嶋津 敏幸	灘五郷酒造組合常務理事	
大黒 孝文	神戸大学発達科学部附属住吉中学校教諭	
豊田 實	神戸歴史クラブ理事長	
道谷 卓	姫路獨協大学法学部助教授	
宮田 隆夫	神戸大学理学部教授	欠席
室谷 弘文	住吉川清流の会会長	
山本 眞敬	市立住吉小学校PTA会長	欠席

【事務局】

六甲砂防事務所	諸留副所長、石尾課長、狩集建設専門官、金丸技術員
株式会社エイトコンサルタント	伊藤、田中、長谷川、松島、苦瓜、平井

4. 配付資料

- 議事次第(次第・委員会名簿・配席図・設立趣意・規約)
- 第2回検討委員会資料 (資料①~④)
- 参考資料編 (アンケート及びヒアリング意見要旨・各委員からの提供資料)

5. 議 事

1. 開会	・六甲砂防事務所 諸留副所長あいさつ
2. 第1回委員会での意見概要について	・事務局による説明 (資料①、参考資料編)
3. ヒアリング時にご提供頂いた参考資料について	・事務局による資料紹介 (参考資料編)
4. 第2回委員会での検討内容について	・事務局による説明 (資料②)
5. 学習テーマ・ストーリーについて	・事務局による説明 (資料③、参考資料編)
6. 学習テーマ等についての意見交換	・委員による意見交換 (別項参照) ・事務局による説明 (資料④)
7. 次回委員会の予定について	・事務局による説明
8. 閉会	・六甲砂防事務所 諸留副所長あいさつ

<第1回委員会の補足意見について>

(田中委員長)

- ・ヒアリング意見一覧「砂防と地質」に示されているアカホヤの年代は、6,300年から7,300年、A Tの年代は25,000年から29,000～27,000年に、それぞれ更に古いことが判明している。
- ・また、意見一覧「まちづくりと歴史」に、神戸地区の歴史は江戸時代がぼっかり空いているという意見が挙げられているが、この点について道谷委員どうか。

(道谷委員)

- ・江戸時代の空洞は政治史と考えられ、御影石や灘の酒造など住吉川では、むしろ江戸時代の内容が多く、誤解があるのではと思う。

<ヒアリング時にご提供頂いた参考資料について>

(田中委員長)

- ・提供資料について補足説明があればお願いしたい。

(豊田委員)

- ・「いきいきわくわく体験マップ」は、六甲山だけでなく六甲山系の山々を舞台に、山登りを通じた子どもたちの学習教材になればとの思いで、神戸市シルバーカレッジが主体となって、大阪教育大学の先生、教育委員会などの協力のもとに3年がかりで作成したものである。
- ・このマップづくりの一環として行ったアンケートでも、登った経験のある山として六甲山がダントツの1位であったが、この六甲山をもう一度見直し、神戸市や周辺の子どもたちの学習によって、六甲山に親しみ、自分たちの宝にしていくための参考になればと願っている。

(田中委員長)

- ・前回欠席でした室谷委員、何かご意見があればお願いします。

(室谷委員)

- ・今回の取り組みは、非常にありがたく思っている。昭和35年頃、魚崎にて川掃除を始めたが、その中で子供たちが様々なこと学ぶことができた。今の子どもたちにも経験させてやりたいと思う。また、今では清掃活動はあたりまえとなっているが、集めたゴミの処理まで考えて頂きたい。
- ・大水害後、住吉川上流に40近くの砂防堰堤が整備され、大きな水害が起きていないが、このことを住民の多くは知らない状況である。また、住吉川の改修時、遊歩道の設置要望に対し、行政との論議、地元からの反対などもあったが、現在では、夜間一番安全な遊歩道として多くの住民に利用されている。当時反対された方も、そのことを忘れたかのように利用している。
- ・このように、当地域には、様々な歴史があって今日があり、昔のことを粗末にはしていないと感じている。

<学習ゾーン整備の目的、学習テーマ等について>

(田中委員長)

- ・学習テーマ等についての意見交換に入りますが、その前に、本日欠席である宮田委員より事前の意見を頂いており、事務局より紹介をお願いしたい。

(事務局)

- ・宮田委員より学習テーマの考え方として、中学校等における総合学習にて、シリーズ的な展開

ができない場合は、アラカルト・メニューが良いのではないか。また、従来の理科、社会などの授業の過程での現地見学も考えられるとの意見を頂いている。

- ・さらに、地質関係における学習素材に関連し、アカホヤ自体よりも断層が確認できることに価値があることや、五助橋断層の重要性及び学習地点として案内の必要性などについて意見を頂いている。

(田中委員長)

- ・まず、整備の目的や内容等についての意見を伺いたい。

(豊田委員)

- ・目的の語句に「六甲山系の土砂災害」とあるが、着目するのは災害でなく、防災との結びつき、つまり、過去の災害を教えるのと同時に、防災についても教えていく必要があるのでは。

(大黒委員)

- ・テーマの「不思議」「素晴らしさ」「危険」についても少しニュアンスが違い、子どもたちに伝えたい内容として「防災」との絡みが必要だと思う。良いキャッチコピーとして、琵琶湖での「たんけん」「はっけん」「ほっとけん」が挙げられるが、自分たちが暮らす琵琶湖を探検・発見した上で、ほっとけない、どうするかと。「危険」を知って、そして、どうするのか、今後の行動に繋げることが重要だと思う。

(豊田委員)

- ・小学4、5年生を対象としたアンケート結果では、水害や洪水などの基本的な言葉自体は知っているものの、浸水とか集中豪雨、土石流などの具体については無知な状況で、実際に役立つ知識を学ぶカリキュラムが必要ではないか。

(道谷委員)

- ・「歴史」「自然」から災害は学べるものであり、災害はバックグラウンドとして、あまり災害を前面に出さないほうがよいのでは。

(大黒委員)

- ・本校では、砂防に関する学習プログラムの継続的な取り組みがあるが、決して教える視点ではなく、様々な情報を子どもたちに提供した上で、例えば「なぜ、川をコンクリートにする必要があるのか？」などを、歴史的な背景とともに現状について、自分たちで考え理解するプログラムが必要と考えている。

(豊田委員)

- ・その当時の活動を冊子で見ると、グループ学習など、子どもたちが話し合い自分たちで考え学べるということが重要であると思う。

(田中委員長)

- ・ここまで、学校教育の一環としての意見が中心として挙がっているが、地域の人々にも必要なことだと思う。地域の観点からの意見があればお願いしたい。

(室谷委員)

- ・防災の言葉を入れた場合、地域による温度差は、同じ中学生でも激しいと感じている。先だって、南海地震への備えをテーマとして中学生に話をする機会があった。これまでの経験から15分の質問時間を設けたが、質問が多く時間が足りない状況であった。危機感のある地域では、鋭い質問が多く出てくる。子どもたちに防災を教えるのは非常に難しいと感じている。

(後藤委員)

- ・整備の目的については、現在、2つの文章となっているが、「地域の自然・歴史や文化、六甲

山系の土砂災害の歴史を学び、防災や減災などまちづくりに関わる…」といった1つの文章にすれば、豊田委員や大黒委員の意見に繋がるのではと思う。

- ・確かに、防災だけの切り口では難しい面はあるが、家庭や地域、学校で話し合える環境を、地域で創っていくことが究極の目標になるのではと、これまでの意見から感じている。

(豊田委員)

- ・六甲山系全体を対象とするテーマは大きすぎるため、テーマが決まったら、住吉川を対象とした副題が必要である。

(後藤委員)

- ・あくまで、住吉川を1つのモデルという考え方で、ここで有益なものできれば、住吉川から徐々に六甲山系全体へと広げて行ければと思っている。

(田中委員長)

- ・ここまで、整備の目的、テーマについて意見が出されたが、事務局の意見をお願いしたい。

(事務局)

- ・整備の目的、テーマについては、本日のご意見や琵琶湖での事例を踏まえ、次回までに再考、修正していく。また、子どもたちに考えさせる視点が重要とのご意見が挙がっていたが、こうした点については、9Pの①～⑦に配慮事項として整理しており、これらを踏まえつつ検討していきたいと考えている。
- ・また、対象者についても意見を頂きたい。

(嶋津委員)

- ・目的として、「主体的行動がとれる人づくり」とあるが、その具体的な行動の内容として、どのように考えているのか。まちづくりに関わる人を育てる意味だと捉えているが、現実的に3世帯で暮らしている世帯はどの程度だろうか。高校を卒業すれば、街を出る子供が多いのが現状である。
- ・取り組みの目的として、学習の教材づくりとしては良いと思うが、「まちづくりに関わる」となると、実態はどうかと疑問に感じる点がある。文章としては良いのだが。

(後藤委員)

- ・防災活動も、まちづくりの一環という捉え方として、現在の表現を理解しているが、あまりに意味が広すぎるのであれば、もう少し限定した表現も必要かと思う。
- ・ただ、地域の人が自ら地域に関心を持ち、地域に働きかけを行っていくことが重要で、その1つとして、防災や清掃活動、教育活動が挙げられると思っている。

(嶋津委員)

- ・まず、親が興味を持ち子どもと接しないと、目標とする学習は進まないと感じている。歴史やまちづくりに興味を持つのは、現役サラリーマンが終わってからで、3世帯の家庭でないと難しいのではと思う。

(豊田委員)

- ・学校で子供が学んで、家庭に帰って家族で話をし、そこから繋がりが広がると思う。まずは、学校教育が出発点となるのではないか。

(大黒委員)

- ・今の親は、子どもの進学のことに関心があっても、学校で何をやっているのかについては、興味を持たないし、中学生になると親と話をしないのが現状である。
- ・今回、アカホヤの見学活動で六甲砂防事務所にお世話になり、また、見学の様子がHPに掲載

されているが、これが非常に有効である。自分の子供の写真がHPに載ると、親は興味を持ち、そこから親子の会話が発展していく。そうした意味で、HPをはじめ、ITを活用した仕組みづくりが非常に重要で、HPの活用拡大や本委員会との連携が必要だと感じている。

(道谷委員)

- ・来月、東灘区の小学3年生が、昔の生活などを勉強しに文化資料館に来る予定である。毎年、東灘区の23校、2,000人程になる。その面白い効果として、3年生くらいの子供はその内容を家庭で親に話し、次の週には、子供が親と一緒に見学に来られる。このように、まず子供に伝えることは重要で、子供から親、そして地域という流れの仕組みが出来るのではと思う。ただ、中学生になるとITなどの有効活用が重要になってくると感じている。
- ・また、東灘区の歴史的な経緯として「都会の中の村社会」という表現ができるが、こうした地域特性を考慮していく必要がある。現在、5ヵ町村+六甲アイランドの6つの地区で形成されているが、東灘区で話し合いをする際には、6地区の代表者で構成しないと苦情が発生する。反面、こうした村社会が強い住民の連携を保ち震災時にも役立った。
- ・現在の3分の1が震災後に転入した新住民で、人口も当時の倍近くになり、旧住民・新住民さらには新々住民といった住民構成となっている。
- ・今回の取り組みを当地区で展開していく上で、こうした東灘区の特殊性を踏まえていく必要があると思う。

(田中委員長)

- ・地域性を活かすことの重要性について意見を頂いたが、その他、テーマやストーリーについての意見をお願いしたい。

(後藤委員)

- ・「危険」に変わる言葉が浮かんでこない状況だが、やはり、「不思議」「素晴らしさ」「危険」では、ゴロが気になる。「素晴らしさ」は「かがやき」という言葉でも表現できるが、陰の言葉である「危険」を陽に変える必要を感じる。

(大黒委員)

- ・キャッチコピーはやはり重要で、ゴロを合わせるなど、わかりやすさが一番だと思う。また、現在、陽、陽、陰のゴロとなっており、最後も陽の言葉、自分たちが行動を起こすような言葉、行動目標となる言葉が望ましいと思う。

(豊田委員)

- ・「知る」という言葉自体に、受身的で教えるイメージがあり、自らが学ぶ視点からも、締めくくりは、能動的な発想に繋がる言葉が望ましいのでは。

(事務局)

- ・議論の途中であるが、時間の都合上、テーマ、フレーズの表現については、本日の意見を踏まえ次回へ向けて事務局にて再検討することをご了承頂きたい。また、時間軸のまとまりなどによるストーリー案を今回提示しているが、これについてもテーマと併せて、今後さらに検討を行い、次回に提示することをご了承頂きたい。

<その他、訂正事項等について>

(大黒委員・道谷委員)

- ・14PのGISはGPSの間違い。また、11Pの一覧表の「野呂の巨石」は「野寄の巨石」である。

(事務局)

- ・間違いであり訂正する。

(田中委員長)

- ・15Pの分布図の範囲だと、アイスロードの表示が可能であるが入れないのか。氷室は住吉駅近くだ。

(後藤委員)

- ・今回は住吉川流域の情報に限定しているため、入れていない状況と理解している。

<学習地点及び施設整備について>

(後藤委員)

- ・今あるものを十分に活かしていくことが基本的な考えであるが、更により効果を高めるためには、新たに設けるものや付加することも必要である。これまでの意見として、経費や維持管理面の重要性についても挙げられていたが、資料④の施設整備等では、ハード・ソフト・仕組みづくりの観点からの提案がされている。
- ・この仕組みづくりが、今後の維持管理に繋がっていくと考えられ、ハードに対する両輪として、地域に根ざした仕組みが重要であり、地域力に結びつくことを期待している。また、地域防災コミュニティなどとの連携を含め、もう少し具体化した段階にて、ソフト部分の議論を深めていくことが必要だと考えている。

(豊田委員)

- ・最終的な形としては、冊子となるのか。

(後藤委員)

- ・冊子も一つの形だが、それだけでなく、実際にフィールドに出て、子供の学習や生涯学習、イベント的な活用展開を図りたいと考えている。また、情報を提供するのみで、家族などで自由な散策なども考えられる。

(豊田委員)

- ・冊子だけでなく、イベントなどの展開は非常に良いと思う。そうなると、カリキュラムとしての内容が重要になってくるが、これまでの冊子とは一味違うものを検討していく必要がある。

(後藤委員)

- ・そのためには、素材が「ある」というだけの情報ではなく、その裏にある情報を掘り下げる $+\alpha$ の情報提供、解説が必要であり、各委員の知恵を提供いただければと考えている。
- ・例えば「アカホヤ」が「ある」だけの情報ではなく、積った土砂が厚いことから、六甲山の土砂崩れの激しさを知るといった $+\alpha$ であるとか、こうした地域情報の掘り起こしが必要だと思う。

(田中委員長)

- ・アカホヤの名は宮崎の人が付けたと言われているが、堆積した上部が赤黒いことと、ランプのガラスを「ホヤ」と呼ぶことが、アカホヤ（赤いガラス質）の由来である。

(大黒委員)

- ・学校を引き込むためには、カリキュラムの中に組み込むための仕組みが重要になってくる。例えば、総合とか選択の中で、実際にどのような学習プランが提案できるかが鍵になってくると思う。

(豊田委員)

- ・神戸市の教育委員会は総合学習のカリキュラムは作っていない状況で、各校にて独自のカリキ

ュラムを展開している現状である。教育委員会は、こうした取り組みによるカリキュラムを期待していると感じてしる。

(田中委員長)

- ・意見交換はここまでとして次回に繋げたいと思う。今後の予定について事務局に願います。

<次回委員会の予定について>

(事務局：副所長)

- ・本検討委員会の開催状況について、事務所のHPでの情報公開を考えているが、委員会でのご意見、氏名、写真等の公開について委員皆様の同意を得たい。※一同了承
- ・次回の委員会開催は1月下旬を予定しているが、日時については、皆様の都合を確認した上で調整したい。

<閉会のあいさつ>

(後藤委員 (事務所長))

- ・本日のご意見を持ち帰って、次回の資料作成に反映していきたい。また、テーマも再考していくものであるが、方向性が定まらないと検討の腰が据わらない面もあり、次の2案で「危険を知る」の仮置きをさせて頂きたい。
- ・1つは「私たちの住む街の安全を考える」もう1つは「私たちの生活(暮らし)の安全を守る」の2つの観点から再整理し、次回の委員会の前にご意見を伺いたい。※一同了承
- ・長時間に亘る意見交換、ありがとうございました。